

歴史イメージとしての絵葉書 —研究の動向および社会的意味の再検討— 역사 이미지로서의 그림엽서 —연구동향과 사회적인 의미의 재검토—

毛利康秀†

本稿は、2019年10月4日に韓国・東亜大学校で開催された「歴史人文イメージ研究所開所記念 秋期国際学術大会」(主催：東アジア日本学会および東北亜文化学会)で行った基調講演の内容を加筆のうえ再構成したものである。

I. 그림엽서란 무엇인가 (絵葉書とは何か)

그림엽서의 일반적인 정의란, "그림 또는 사진이 인쇄된 우편 엽서"입니다. 사진을 인쇄한 그림엽서가 다수를 차지함. 단, 학술적으로 통일된 그림엽서의 정의는 확립되어있지않음.

그림엽서는 근대적인 우편제도의 확립이후에 사용이 용인되었음. 19세기말 ~ 20세기초두, 그림엽서의 수집이 세계적으로 유행함. 아시아에서는 일본제의 그림엽서가 대량으로 발행됨. 지금부터 약 100여년전은 "그림엽서의 황금 시대" 라고 불리운 시기임.

사제그림엽서가 인가된 시기

독일...1872년

프랑스...1875년

영국...1894년

미국...1898년

일본...1900년

그림엽서는 다양한 기준에 의한 분류가 가능하나, 현재로서는 명확한 분류방법이 확립되지않음.

관제그림엽서는 대체로 전모가 파악되어있으나 사제그림엽서 분야는 아직 명확히 밝혀지지 않은영역이 존재.

일본에서는 그림엽서를 수집하는 것이 유행하였으나, 1945년의 패전으로 인해 이 같은 붐이 단절되었음. 전후에도 그림엽서는 수집의 대상이었으나 인기가 있던 것은 관제그림엽서였음 (우표수집의 연장선). 사제그림엽서는 종류가 너무 많아 일부의 애호가 이외에는 인기가 없었음. 근래에 들어, 박물관이나 연구기관에서 수집하는 예가 증가하고 있음.

絵葉書は、一般に「絵または写真が印刷された郵便葉書」のことを指すが、学術的に統一された定義はまだ確立していない。文字通り絵画やイラストをあしらった絵葉書も多いが、風景などの写真を印刷した写真絵葉書が多数を占めている。

絵葉書は近代郵便制度が確立してから成立した¹。当初は官製葉書の使用しか認められていなかったが、19世紀の後半には私製の葉書の使用が欧米各国で認められるようになり、絵葉書が流通するようになった。日本で解禁されたのは1900年のことである²。

私製の絵葉書が認可された年³

ドイツ：1872年

フランス：1875年

イギリス：1894年

アメリカ：1898年

日本：1900年

19世紀末から20世紀初頭にかけて、絵葉書の発行と収集のブームは世界的に巻き起こった。今から100年前は「絵はがきの黄金時代」と呼ばれた時代であった⁴。

絵葉書を対象とした先行研究には一定の蓄積が見られるが、その分類法はまだ確立しているとは言えない状況である。先行研究の成果を概観しながら内容別に分類すると図1のように、形式別に分類すると図2のように表すことが出来る⁵。一つは、絵葉書の中身による分類である、美人絵葉書、風景絵葉書など、表現されている絵柄によって分類していく方法である。写真絵葉書、イラスト絵葉書など、表現方法による分類も可能である。同じ被写体であっても、写真が使われていたりイラストで描かれていたり、あるいは版画として起こされていたり

†日本大学文理学部



図1 絵葉書の分類 (内容) 그림엽서의 분류 (내용)



図2 絵葉書の分類 (形式) 그림엽서의 분류 (형식)

など、表現方法も多彩である。使用目的で分類することも出来る。広告宣伝を目的とした絵葉書、観光土産として販売された絵葉書などである。絵葉書は、出現した時代により主流となった印刷方法が異なり、印刷技術での分類も可能である⁶。絵葉書の形式として発行元に着目すると、国家や自治体などが発行する官製絵葉書と、民間企業が発行する私製絵葉書に分類出来る⁷。

絵葉書の収集は世界中で流行した⁸。日本においても、絵葉書が解禁されてほどなく人気に火がつき、日露戦争期には戦勝に関する記念絵葉書が多数発行されて収集熱もおおられ、全国に絵葉書専門店が次々と開店し、一大ブームを巻き起こした。その様子は、『明治世相百話』の中で「戦勝記念の発行ごとに郵便局へ押し寄せる群衆は凄いほどで、中にも陸軍凱旋式記念の一枚は大した人気、各郵便局前は長蛇の列を作ったが、ついに神田万世橋郵便局では人死があったという騒ぎ」と描写されるほど大変なものであった⁹。

日本での絵葉書収集ブームは、1945年の第二次世界大戦の敗戦でいったん断絶した。戦後も絵葉書は収集されたが、切手収集の延長または周辺に位置づけられており、人気があったのは官製絵葉書であった。私製絵葉書は、種類が多すぎて一部の愛好家以外にはあまり注目さ

れず、カタログ等が発行されることもなかった。近年は、私製絵葉書も含め博物館や研究機関で収集される例が増えている。

II. 그림엽서와 사회 (繪葉書と社会)

그림엽서는 「사회의 근대화」의 성과의 하나로서 성립하였음. 그림엽서의 보급은 근대사회의 발전과 보폭을 맞추어 함께 진전되었다고 볼수 있음.

그림엽서 유통의 구조로서, 통치기관 (국가·지방정부)는, 대중에게 보여주고 싶은 화상을 제작/판매 (선전목적)했다. 그리고, 대중에게 보여주고 싶지않은 화상은 검열로 규제했다. 민간기업 (그림엽서업자)는, 팔고싶은 화상 (이윤을 얻는 화상)을 팔았다. 소비자는, 사고 싶은 화상을 샀다. 그리고, 보내고 싶은 (전하고 싶은) 화상을 보냈다.

초기의 그림엽서는, 매스·미디어, 퍼스널·미디어의 두 개의 사회적 기능이 있었다.

· 매스·미디어로서의 그림엽서 (판매자로부터 구매자에게)

그림엽서는 뉴스를 대중 (매스)에게 넓게 전달하는 기능도 가지고 있었음. (그림엽서는 저렴한 비용으로 대량 복제가 가능) 초기의 그림엽서는 뉴스 속보의 기능이 있었음.

· 퍼스널·미디어로서의 그림엽서 (보내는 사람으로부터 받는 사람에게)

화상 + 메시지를 통한 커뮤니케이션 (사진첨부 전자메일의 기원)이다. 「전하고 싶은」 화상이 선택되었다. 또, 그림엽서로 인해 사람들의 편지 쓰는 습관이 형성됨.

매스·미디어로서의 그림엽서는 이미 그 역할이 끝났음. (신문에 사진을 인쇄하는 기술의 향상과 텔레비전의 보급으로 인하여) 또한, 퍼스널 미디어로서의 역할도 끝이 난 상황. (전자메일의 발달로 인해 그림엽서의 필요성이 사라짐.) 그림에도 그림엽서는 현재도 관광지에서 기념품으로서 존재함. (선물 / 기념품으로서 저렴/적당한 가격으로 부담이 없음) 즉, 현대에도 그림엽서는 관광지의 선물 / 기념품으로서 존속하고 있음.

오늘로는, 그림엽서는 영화나 드라마 관련 상품으로 인기가 있어 무대가 된 지역의 관광진흥 (컨텐츠·투어리즘)에도 도움이 되고 있음. "상품으로서의 그림엽서", 는 관광진흥에도

도움이 되고 있음 라고 말할 수 있다.

絵葉書は「社会の近代化」の成果の一つとして成立した。絵葉書が生まれた時代背景は、図3のように表すことが出来る。絵葉書は郵便制度の一部に位置することから、まずは近代的な郵便制度の確立が前提となる。大量の郵便物を送達させるための交通・通信網の発達も必要であった。これらの条件は19世紀半ば頃に、まず欧州の各国で実現していった。

絵葉書は大量に複製されて流通することから、印刷技術の発達も重要な要素である。そして、写真が絵葉書となる前提には、言うまでもなくメディアとしての写真の普及があった¹⁰。すなわち、写真をあしらった写真絵葉書が普及するためには、写真技術の完成¹¹、および写真を印画紙ではなく普通の紙に印刷するための技術の発達を待たねばならなかった¹²。これらの技術は19世紀末には順次普及が進み、世界的な絵葉書収集ブームを支えることとなった。

絵葉書はコレクションの対象としても人気を博したが、郵便制度を活用し、画像情報に私信を添えて伝達するのが、本来の使用法である。よって、識字率の向上、国民がすなわち手紙を読み書き出来る人が増えることも必要であり、これを実現させる初等教育（義務教育）は19世紀後半より普及していった¹³。

このように、絵葉書が生まれた時代背景として、これを成立させる幾つかの条件が出そろふ必要があった。絵葉書の普及は、近代社会の発展と歩調を合わせていたと言える。

絵葉書がもたらした社会的な影響としては、絵葉書の製造・販売業者が多数設立されたことによる経済成長をはじめ、画像情報の共有（マス・メディアとしての絵葉書）、手紙を書く習慣の普及（パーソナル・メディアと

しての絵葉書）が挙げられる。特に、19世紀末から20世紀前半にかけての時期の絵葉書は、マス・メディアとしての機能も果たしていた。ニュースを伝える媒体として、日本では古くは瓦版があり、明治以降は新聞も発行されていた。それにもかかわらず、当時の絵葉書はニュースを伝える媒体としても機能していた。新聞用紙に鮮明な写真を印刷することは当時の印刷技術では難しく、画像情報の伝達は、もっぱらコロタイプ方式で印刷された絵葉書の方が有用であったからである。人々は、絵葉書に印刷された写真を通して、世の中の出来事やニュースをビジュアル的に知ったのである。

1923年（大正12年）に関東大震災が発生すると、凄惨な災害の状況を伝えようとするあまり、多くの死体が克明に映し出された写真絵葉書が多数発行された。あまりに衝撃的な画像であったため、当局によって発売禁止にされたものまであったという¹⁴。これは、佐藤（1994）が指摘しているように、当時の写真絵葉書が、現在の写真雑誌と同等のジャーナリスティックな機能を果たしていたことを表している¹⁵。

絵葉書はその本来の機能として、私信に画像情報を添えて伝達する、パーソナル・メディアとしての機能を持っている。カメラが高価で普及が進んでいなかった当時において、誰かに伝えたいと考える画像情報は絵葉書の中から選ばれた。特に、観光地から差し出される絵葉書にその傾向が強かった。すなわち、絵葉書は、画像と私信を同時に伝達出来る「パーソナルな（個人的な）」メディアであり、写真つき電子メールの起源というべき存在であると言える。

マス・メディアおよびパーソナル・メディアとしての絵葉書の二つのメディア性としては、以下のようにまとめることが出来る。

・マス・メディアとしての絵葉書（売り手から買い手へ）

絵葉書は、ニュースを大衆（マス）に広く伝達する機能も持っていた。（絵葉書は安く大量に複製出来たため）初期の絵葉書はニュースを速報する機能もあった。

・パーソナル・メディアとしての絵葉書（送り手から受け手へ）

画像+メッセージのコミュニケーション（写真つき電子メールの起源）である。「伝えたい」画像が選ばれた。また、絵葉書は、手紙を書く習慣の形成に役立った。

この二つのメディア性に留意して、当時の絵葉書が流通する構造を整理すると、図4のように表

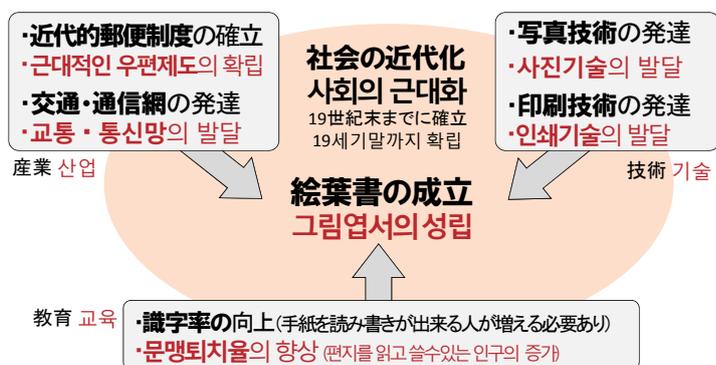


図3 絵葉書が生まれた時代背景
그림엽서가 태어났던 시대 배경

이것들은 여러가지 풍경을 넓히는데 도움이 되었으며, 관광의 발달을 촉진시켰다(관광적 시선). 그림엽서는 근대화의 산물이었기 때문에「전근대적인 것」에의 편견도 볼 수 있었다. 특히, 사제 그림엽서는「팔리는 것」을 만들기 위해서 흥미 본위로 만들어지는 일이 있었다(호기적 시선).

그림엽서에는 "소비자의 선택적 수용" 를 볼 수 있었다. 구매자(소비자)는「보고 싶다」라고 생각하는 그림을 구입했다. 보내는 사람(발신인)으로서「보았으면 좋겠다」라고 생각하는 그림을 선택했다. 예를 들면, 관광지로부터 보내는 그림엽서는「그 지역을 나타내는 도안(디자인)」이 선호되었다. 실제로 사용된 그림엽서에서는 사람들이 어떻게 그림엽서를 선택하고 받아들였는지를 알 수 있다.

그림엽서의 선택적 수용의 예로서, 하얼빈의 그림엽서를 예시할 수 있다. 하얼빈은 19세기말에 러시아인이 건설한 거리이다.「동양의 파리」라고 불려졌으며 당시의 일본인에게 있어서 안전하게 다닐 수 있는「친밀한 유럽」이었다. 초기의 하얼빈 그림엽서는「러시아적」인 그림이 많았다. 하얼빈을 방문한 일본인은「러시아적」인 그림을 골라서 보냈다.「만주국」이 성립된 이후, 하얼빈의 거리는 일본적인 부분이 늘어나 그림엽서 또한 선전이 반영되었고「하얼빈 신사」등 일본적인 것이 많아졌다. 그러나, 여행자는「일본식」인 그림을 별로 사용하지 않았다.(군사 우편에서는 사용되었다) 즉, 여행자는「러시아적」인 경치를 전하고 싶었기 때문에「러시아적」인 그림을 기꺼이 선택한 것이라고 생각할 수 있다.

絵葉書, 特に写真絵葉書は, 制作された時代の風景を保存しているという特徴を備えている。そのため, 絵葉書の制作年代を辿って, 風景の変遷を比較することが可能で, 過去の絵葉書を資料とした研究の蓄積も進みつつある¹⁷。

また, 絵葉書はそれが制作された時代の世相を反映している。当時の制作者(統治機関, 絵葉書業者)の意図を反映していると考えられるので, 絵葉書に込められたメッセージ性を読み解くことにより, 当時の社会の状況を再確認することが出来る。

郵便制度は主に国家によって運営されていたこともあり, 郵便切手のデザインにはプロパガンダ性(政治的宣伝性, 帝国主義的まなざし)が込められていたものが少なくなかった。同様に, 絵葉書もまた一定のプロパガン

ダ性を持たされていた側面は否めない。すなわち, 統治機関が「見せたい画像(宣伝したい画像)」が積極的に絵葉書となって流通させられる一方, 統治機関が「見せたくない画像」は規制されたのである。

朝鮮半島に関連する絵葉書を例にすると, 朝鮮半島を統治した朝鮮総督府は「朝鮮総督府施政記念絵葉書」を発行したが, その絵柄は平和のうちに統治が始まったことを演出するものであった。また, 朝鮮総督府施政を記念する絵葉書(図5を参照)に見られるように, 産業が発達して生産量が増えていることを宣伝する内容の絵葉書が盛んに発行された。しかし, 三・一独立運動をはじめとする独立運動は, 決して絵葉書の題材にならなかった。

観光地の絵葉書は非常に多数の種類が発行された¹⁸。視覚は観光体験の中心にあり¹⁹, 特に写真絵葉書は, 観光地の様々な風景を広めるのに役立ち, それは「観光のまなざし²⁰」となって観光の発達を促進させた²¹。

朝鮮半島の名所や観光地に関する絵葉書も大量に発行され(図6を参照), 現地を訪れる観光客によって活用



图5 朝鮮總督府施政六周年記念絵葉書
조선 총독부 시정 6주년 기념 그림엽서



图6 金剛山・万物相地区の絵葉書
금강산·만물상지구 의 그림엽서

された。現地の風俗に関する絵葉書も発行され（図7を参照）、朝鮮半島における風俗文化を視覚的に紹介することに役立った。

いっぽう、絵葉書は近代化の産物であったから、「前近代的なもの」への偏見も見られた。特に、私製絵葉書は「売れるもの」を作るため、興味本位で作られることがあった（好奇のまなざし）²²。

絵葉書の買い手側に着目すると、消費者による絵葉書の選択的受容が見られた。売り手側の思惑に関わらず、買い手（消費者）は、「見たい」と思う画像を購入したからである。そして、絵葉書が実際に差し出される場面においては、送り手（差出人）としては、「相手に見て欲しい」と思う画像を選択した。伝達出来る画像は出来合いの絵葉書の中からしか選べないので、一番のお気に入りには自分の手元に残したかもしれないが、基本的に「相手に伝えたい」と思った図柄が選ばれたと考えて良い。よって、実際に使用された絵葉書からは、人々がどのように絵葉書を選択的に受容したかを読み取ることが出来る。

絵葉書の選択的受容の研究事例として、ハルビンの絵葉書が挙げられる²³。ハルビンはロシア人によって建設された街であり、初期のハルビン絵葉書は「ロシア的」な絵柄が多かった。ハルビンを訪れた日本人は、「ロシア的」な絵柄を選んで内地へ向けて差し出した。

「満洲国」が成立して以降、ハルビンの街は日本的な要素が増え、絵葉書もプロパガンダの反映として、「ハルビン神社」など日本的なものが増えていった。しかし、実際の使用例を概観する限りでは、旅行者は「日本的」な絵柄をあまり使わなかった。旅行者はハルビンの「ロシア的」な景色を伝えたいから、「ロシア的」な絵柄を好んで選択したからと考えられる²⁴。このことから、

国策として推奨された満洲観光モデルが必ずしもそのまま受容されていた訳ではないことが浮かび上がる。

また、ハルビンで注目されるべき図柄もよく選ばれた。図8・図9は、ハルビンから兵庫県へ送られた絵葉書の使用例である²⁵。ハルビン駅の写真が選ばれ、写真の上に重ねる形で「この場所で伊藤博文公が暗殺された」という旨の注釈が記されている。ハルビンを訪れ、歴史的な現場を目の当たりにした時、それを実況的に伝えようとしたことが伺える。

朝鮮半島から内地へ向けて差し出された絵葉書も、当時の世相や文化を反映したものが見られる。図10・図11は、鎮南浦から三重県へ送られた絵葉書である。姪に宛てた絵葉書で、文面には「チヨウセンノオンナノコハ、



図8 ハルビンから兵庫県へ送られた絵葉書（絵柄面）
하얼빈에서 효고현에 보내진 그림엽서 (도안의 면)



図7 朝鮮風俗絵葉書 婚礼と飾物の様子
조선 풍속 그림엽서 옛 혼례와 장식물의 모습

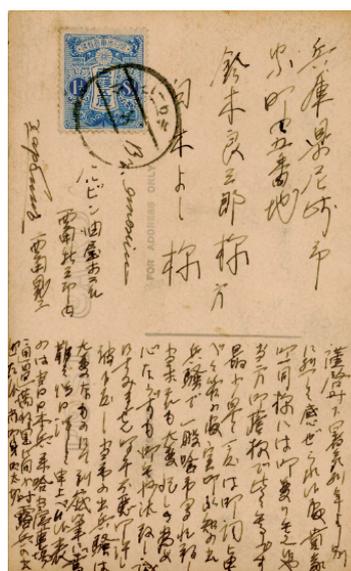


図9 同絵葉書（宛名面）年代不明：1920年前後と推定
같은 그림엽서 (문장의 면) 연대 불명：1920년 전후라고 추정



図10 鎮南浦から三重県に送られた絵葉書（絵柄面）
 鎮南浦로부터 미에현으로 보내진 그림엽서（도안의 면）

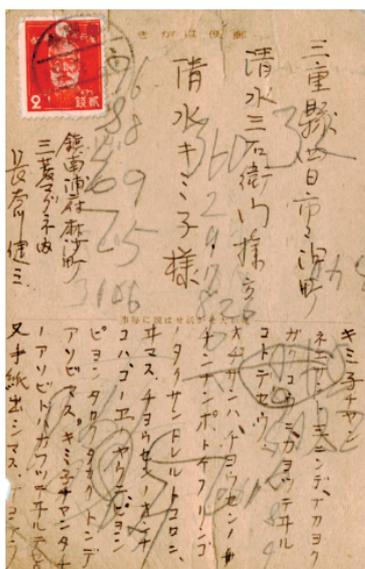


図11 同絵葉書（宛名面）年代不明：1940年前後と推定
 같은 그림엽서（문장의 면）

コノエノヤウニ、ピヨンピヨントカクタカクトンデ アソビマス。キミ子子ヤンタチノ アソビトハ カワツテキルデセウ」と記されており、朝鮮の遊びを紹介している。浦川（2004）が指摘しているように、当時の日本製の絵葉書は、朝鮮半島の風俗を一段低いものとして捉えたような図柄のものが制作されていたことは確かであるが、少なくともこの絵葉書の絵柄からはそのような「まなざし」は感じられず（絵柄面には「朝鮮風俗」を意味

するハングルも記載されている）、記述された文面もきわめて客観的である。絵葉書が当時の人々にとってどのように受容され、活用されていたかの研究は、まだほとんど進んでいない状況であり、今後の研究の進展が待たれる。

IV. 그림엽서 연구 동향（絵葉書研究の動向）

그림엽서 연구는 폭넓은 분야와 관련한 역사적 연구가 중요하다.

그림엽서의 연구는 4개의 단계에 나뉘어진다.

- 제1 단계：그림엽서를 수집하는 단계（개인이 취미로 수집하는 단계）
- 제2 단계：정리·전시 단계（연구기관 등에서 데이터베이스화 되는 단계）
- 제3 단계：해석·고찰단계（그림엽서의 사회적 의미의 해명이 진행된다）
- 제4 단계：전내용의 해명 단계（모든 그림엽서가 망라된다）

현재, 그림엽서 연구는 아직 제2 단계~ 제3 단계의 도중이다.

20세기 이전, 그림엽서는 개인이 취미로 수집하는 것이었다. 그림엽서는 연구 대상으로서는 주목되지 않았다. 그림엽서를 망라적으로 소개하는 서적이 어느정도 출판되었다에 머물렀다.

21세기 이후, 그림엽서가 역사 자료로서 주목받기 시작한다. 그림엽서의 역사에 관한 서적 출판이 늘어나기 시작했다. 그림엽서를 학술적으로 주목한 논문이 늘어나기 시작했다. 2010년 이후, 박물관이나 대학 등의 연구기관에서 그림엽서의 데이터베이스를 구축하여 공개되는 예가 증가하고 있다.

21세기 이후, 한반도에 관련된 그림엽서의 데이터베이스도 공개되고 있다. 한반도의 그림엽서에 관련된 전시회도 개최되어 관심이 높아지고 있다. 앞으로 더욱 더 연구의 진전이 기대되고 있다.

先行研究を概観すると、絵葉書に関する研究は、メディアに着目した社会学の視点や歴史史料に着目した歴史学からの研究が多く、美術史や写真ジャーナリズム史、写真史や技術史からの成果も見られる。しかし、絵葉書は社会の近代社会の発展と歩調を合わせてきたことから、社会史や地域史全般の視点も含め、絵葉書研究は、図12に表されるように、幅広い分野にまたがる研究が重要である。

絵葉書研究は、4つの段階に分けられる。現在、絵葉書研究はまだ第2段階~第3段階の途上であると考えら



図12 繪葉書研究の領域 그림엽서 연구 영역

れる。

- ・第1段階：繪葉書を収集する段階（個人が趣味で収集する段階）
- ・第2段階：整理・展示の段階（研究機関等でデータベース化される段階）
- ・第3段階：解釈・考察の段階（繪葉書の社会的意味の解明が進む）
- ・第4段階：全容解明の段階（すべての繪葉書が網羅される）

20世紀以前、繪葉書は切手収集の周辺にあって、個人が趣味で収集するものであり、研究対象としてはあまり注目されていなかった。コレクター向けの雑誌類を除けば、先駆的な研究として樋畑（1936-1983）の論考がある²⁶。第二次世界大戦後は研究の空白期間が長く続いた。その後、小森（1978）による繪葉書集成²⁷が世に送り出されたことを皮切りに、村松（1980）、六角（1981）、秋山（1988）らによる成果²⁸が続き、佐藤（1994）はこれらの集成を概括した上で繪葉書を論じた²⁹。海外においては、Staff. F.（1966）が欧米各国の繪葉書の起源を探り、T.&V.Holt（1971）が繪葉書の成立から黄金時代についての歴史を取りまとめ、T.Phillips（2000）が20世紀の100年間にわたる世界の繪葉書の使用例を詳細に分析するなどの成果を挙げている。

20世紀末から21世紀に入ると、繪葉書が歴史資料として再評価されるようになり、繪葉書の歴史に関する書籍の出版が増え始めた。柏木（2000）はグラフィズムの視点から繪葉書を論じ³⁰、田邊（2002）は繪葉書のメディア的な特性に着目し、かつて繪葉書が果たしていたマス・メディアとしての役割を実証的に明らかにし³¹、富田（2005）は繪葉書を通して近代日本の歴史を浮かび上がらせ³²、橋爪（2006）はメディアとしての繪葉書に着目して100年に及ぶ繪葉書の歴史と日本の近代史とを

重ねて見せた³³。細馬（2006）も同様の視点から、コミュニケーションの一手段としての繪葉書の性格を「漏らすメディア」として位置づけ、繪葉書ならではの特質について論じた³⁴。中でも、浦川（2001）（2004）（2008）は、朝鮮半島写真繪葉書に着目し、繪葉書の研究史および繪葉書の歴史を繪葉書産業の構造を含めて概観し、繪葉書が持つ異文化の表象性を明らかにしながら、繪葉書の資料的価値について論じており、繪葉書の研究史を進展させた一連の業績として特筆される³⁵。

2010年以降、日本大学文理学部による「ハルビン繪葉書検索システム」をはじめとして、博物館や大学などの研究機関で繪葉書のデータベースが構築され、公開される例が増えている。国際日本文化研究センターによる「朝鮮写真絵はがきデータベース」のように、朝鮮半島に関連する繪葉書の収集・展示も進みつつある。佐賀県立名護屋城博物館による「テーマ展近代のまなざし—繪葉書の中の朝鮮半島—」朝鮮半島の繪葉書に関連する展示会も開催されるなど、関心が高まっている。他にも、繪葉書趣味の普及と研究を目的とした「日本繪葉書会」が2002年に設立され、高山編（2018）（2019）による朝鮮半島繪葉書の研究成果が発表されるなど、学術的な活動も行われている³⁶。今後の一層の研究の進展が期待されている。

V. 정리와 향후의 과제 (まとめと今後の課題)

그림엽서 연구의 현상 정리로서, 이하처럼 말할 수 있다. 그림엽서가 「역사 자료」로서 재평가되고 연구가 진행되고 있다. 먼저, 테마별의 수집과 도안(그림)의 분류가 선행, 그림엽서의 사회적 영향력의 해명도 진행된다(선진성 등). 단, 실제로 사용된 그림엽서의 문면에 관한 연구는 이제부터이다 이다.

그림엽서 연구의 문제점은, 이하처럼 말할 수 있다. 예를 들면, 수집이 아직 진행되지 않았다(미수집의 그림엽서가 대량으로 있다), 상세 정보가 불명확한 점이 많다.(많은 정보가 없어졌다), 연구 방법이 확립되고 있지 않다(자료 비판을 하는 방법이 부족하다), 연구기관의 제휴가 진행되지 않았다(데이터베이스가 없고 있다), 일본의 경우, 1945년에 단절되었다(전후의 연구는 진행되지 않았다), 등이다.

이상처럼, 그림엽서 연구는 일정한 진전이 있지만 아직 발전 단계이다.

향후의 과제로서는, 이하의 항목을 지적할 수 있다. 예를 들면, 그림엽서의 한층더 많은 수집(빨빨이 흩어져서 없어지는 것을 방지하여 데이터베이스를

충실시킨다), 데이터베이스의 체계적 정리 (많은 정보를 등록해 운용), 데이터베이스간의 제휴 (개별 데이터베이스에서 종합적 데이터베이스로), 넓은 영역에 걸친 연구자와의 제휴 (다각적인 문제의 해명), 연구 성과의 국제적인 공유 (그림엽서의 전체적 해명으로의 첫걸음), 등이다.

향후, 그림엽서에 관한 연구의 진전이 더욱 더 기대되고 있다.

絵葉書は、それが出現した時代においては、比較的低いコストで視覚的に情報を伝達出来る数少ないメディアであり、出現当初はマス・メディアとしての機能も有していた。発行数も多く、比較的廉価で買い求めることの出来る大衆的なメディアであり、それゆえ収集の対象として圧倒的に人気を集めるメディアであった。21世紀においては、マス・メディアとしてはもちろん、本来のパーソナル・メディアとしての機能もほぼ失われているが、現在も、観光土産やグッズとしての命脈を保っている。

絵葉書研究の現状として、以下のようにまとめることが出来る。絵葉書研究は20世紀以前からも進められ、一定の成果を挙げてきたが、21世紀以降は、「歴史資料」としての絵葉書の価値再評価されるようになり、学術的な研究が一層進展しつつある。まず、テーマ別の収集と図柄の分類が先行し、絵葉書が持たされたプロパガンダ性など、絵葉書の社会的な影響力の解明も進められている。ただ、現状においては絵葉書の図柄に着目した成果が多くを占めており、実際に使用された絵葉書の文面に関する研究は進んでいるとは言えず³⁷、これからの課題である。

絵葉書研究の問題点としては、以下のことが指摘出来る。まず、現状においては各研究機関が設定したテーマに沿った絵葉書が選択的に収集されている段階にとどまっており、まだ収集されていない絵葉書が大量にあって、解明が進んでいないことである。そして、現存する絵葉書は、発行時期や発行所に関する情報が不明なものが多く、全貌の解明を困難にしている。他の文献と比べて書誌情報に乏しく、田邊(2002:73)が指摘するように資料批判をする方法も確立されていない。佐藤(1994:24)は、絵葉書の研究の実情として「各々の専門領域から派生した関心をもとに絵葉書を論じた感が強く、それぞれに独立に研究されている」と指摘したが³⁸、現在もなおその傾向が残っている。同様の意味において、研究機関同士の連携が進んでおらず(データベースが孤立しており)、今後の連携した研究の進展が

待たれる。また、日本の場合、1945年で研究の断絶が見られる。絵葉書の研究対象として、第二次世界大戦前のものを対象としているものが多く、戦後に発行された絵葉書の解明はまだほとんど進んでいる状況ではない。以上のように、絵葉書研究は一定の進展があるが、まだまだ発展の途上である。

今後の課題としては、以下の事柄が挙げられる。まずは絵葉書のさらなる収集(散逸を防止してデータベースを充実させる)を基本として、データベースの体系的整理(多くの情報を登録して運用)、データベース間の連携(個別データベースから総合的データベースへ)、広い領域にまたがる研究者との連携(多角的な問題解明)、研究成果の国際的な共有(絵葉書の全容解明への第一歩)などである。今後も、絵葉書研究の一層の進展が期待されている。

補足

注記のない絵葉書の画像は、筆者が所蔵するものである。

謝辞

本稿の作成にあたっては、情報科学の分野からは谷聖一氏(日本大学文理学部教授)、歴史学の分野からは松重充浩氏(日本大学文理学部教授)より助言をいただいた。特に、ハルビン絵葉書の文面の検討にあたっては岩田陽子氏(日本大学文理学部講師)より多大なる助言をいただいた。また、本稿の元となった基調講演は、韓国における絵葉書研究の第一人者であり、東亜大学校・中国日本学部で副教授を務める申東珪(신동규・シンドンギョ)氏の働きかけにより実現したものである。韓国語への翻訳にあたっては、崔瑛氏(静岡英和学院大学人間社会学部准教授)、金承子氏(静岡英和学院大学人間社会学部准教授)の協力を仰いだ。ここに記して謝意を表したい。

注

- 1) 近代郵便制度は1840年にイギリスで施行された均一料金郵便制度に始まり、欧米各国で同様の制度が整備された。官製葉書は1869年にオーストリア=ハンガリー帝国で発行されたものが最初である。Staff. F (1966:51)によると、官製葉書の一部に絵を入れたものはドイツにて1870年頃から作られており、葉書の全面に絵があらわれた絵葉書が初めて登場したのは1871年、オーストリア=ハンガリー帝国でのことである。
- 2) 日本における絵葉書は、1900年(明治33年)10月、私製葉書の発行を許可するという逓信省令が出されたことに始まる。これにより民間から絵葉書が発行されるようになった。
- 3) 私製の絵葉書の発行が認められた(通常の葉書と同じ料金で出せるようになった)年を指す。
- 4) 「絵葉書の黄金時代」を指す期間には諸説あるが、およそ1898年~1918年の20年間を指すことが多い。小川(1990:25)によると、1905年(明治38年)における世界の絵葉書の発行枚数は、18億2967万4000枚に達して

- いたという。
- 5) 絵葉書の分類における先行研究としては、生田 (2009) の成果が挙げられる。生田は、絵葉書の内容について、絵葉書の発行年代別ではなく、描かれた図像の内容別に分類・整理し、それらの歴史と特徴についてまとめている。
 - 6) 初期の絵葉書はコロタイプと呼ばれる方式で印刷されることが多く、江本 (2013: 23) によると、戦前期の風景絵葉書は、ほぼすべてがコロタイプで印刷されていたという。
 - 7) 広義には、個人が手作りした私製絵葉書も絵葉書の中に含まれるが、絵葉書研究では特に含められないことが一般的である。
 - 8) 19世紀末には欧米各国で絵葉書発行会社が多数設立され、絵葉書を扱った雑誌も創刊され、交換会が頻繁に催されたほか、絵葉書に関する博覧会も開催された。当時の状況は、Tonie Holt, Valmai Holt (1971) の記述に詳しい。
 - 9) 山本 (1971: 44) の記述を参照。逓信省が発行した日露戦争の戦勝記念絵葉書は、全8回、47種類ものシリーズとなって人気を博した。私製の絵葉書も大量に発行され、日露戦争関係のものだけで4500種類に達した。
 - 10) 米田 (2013: 17) の記述を参照。米田は、近代メディアとしての絵葉書という着眼点をもとに、写真技術の普及および絵葉書の制度化について論じた。
 - 11) 写真の起源には諸説あるが、バッチェン (1997-2010: 56) の研究によると、1827年にフランス人発明家のニエプスによって撮影された写真が世界初であるとされる。本格的な普及が始まったのは、1839年にフランスのダゲールが実用的な写真技法として「ダゲレオタイプ (銀板写真)」が開発されて以降のことである (同: 57)。
 - 12) 初期の写真絵葉書は、コロタイプ印刷が多用された。これは実用化された写真製版としては最も古いもので、1876年にドイツで実用化された。米田 (2013: 18) によると、コロタイプ印刷は、大規模な設備を必要とせず、数百枚から数千枚の写真印刷をするのに適しており、しかも高画質の印刷が可能であった。江本 (2013: 25) も「コロタイプ印刷あつての絵葉書であり、絵葉書あつてのコロタイプ印刷であった。」と評しているように、写真絵葉書といえはコロタイプ印刷という時代が長く続いた。
 - 13) 例えば、アメリカでは1852年にマサチューセッツ州が初めて義務教育制度を制度化し、イギリスでは1870年の初等教育法により近代的な公教育の制度が始まった。日本では江戸時代以前から寺子屋などで広く読み書きの教育が行われており、1886年の小学校令により尋常小学校の修業年限が義務教育化された。なお、樋畑 (1936-1983: 27) は、人々に「はがきを書く」経験をもたらす機会として、戦争による兵士の出征と軍事郵便の整備があったと指摘しており、実際に大量の絵葉書が戦地と内地との間でやりとりされた。
 - 14) 震災絵葉書が売り出されると、販売店には数百メートルもの長蛇の列が出来た。死体が映し出された写真は発売禁止に処されたが、禁止以降はプレミアムがついて出回ったという。なお、震災絵葉書については近藤編 (1993) や木村・石井 (1990) に詳しい。
 - 15) 佐藤 (1994: 20) を参照。佐藤は、1981年に創刊された写真雑誌『フォーカス』に掲載される興味本位の写真を「死体をのぞき見る感覚」と評しており、明治・大正期に発行されていた写真絵葉書の中には地震・噴火・水害などの災害を報じたものが少なからずあり、死体や遺骨を写した写真すら絵葉書になって流通していたことと対比し、今日の『フォーカス』につながるまなざしが、それよりも70年以上前に、絵葉書という形式で発現していたことを指摘している。
 - 16) コンテンツツーリズムは、小説・映画・ドラマ・漫画・アニメーション等の作品 (コンテンツ) に関連のある場所を訪れる形態の観光 (ツーリズム) と総称され、「地域に『コンテンツを通じて醸成された地域固有の雰囲気・イメージ』としての『物語性』『テーマ性』を付加し、その物語性を観光資源として活用することである」とする定義が広く用いられている (国土交通省他 2005: 49)。
 - 17) 例えば、浦川 (2001: 24) は、歴史を検証する写真資料としての絵葉書の機能に着目した研究を行っている。Zoe K. Millman (2013) の研究も同様の着眼点による成果として挙げられる。
 - 18) 小川 (1990: 37) の研究によると、日本では絵葉書が解禁されてから10年足らずの間にめばしい観光地では絵葉書がもれなく発行されるようになり、明治末期における観光絵葉書は3万種類にも達していたという。
 - 19) アーリ・ラースン (2011-2014) は、視覚は観光体験の中心にあり、写真は「観光のまなざし」を進展・拡大する最も重要な技術であるとしている (Urry, Larsen 2011-2014: 240)。
 - 20) アーリ (1990-1995) によると、「観光のまなざし」とは、近代観光の特徴として、近代社会の成立によって獲得された新しい非日常的「まなざし」の組織化として理解される (Urry 1990-1995: 2)。
 - 21) 柏木 (2000) は、観光絵葉書は、旅行した記念として買い求められ消費された以上に、まだその地に赴いていない人々にも観光地の風景を紹介する効果があり、人々は、絵葉書に映し出された風景を求めて、その風景を確認するために旅行に赴くようになる役割を果たしたのではないかとしている (柏木 2000: 103)。
 - 22) 例えば、浦川 (2004) は、戦前期に発行された日本製の朝鮮半島絵葉書の図柄における差別性に着目し、「絵葉書を撮影・印刷・発行した絵葉書産業界全体が、「好奇の目」「我々よりも遅れている」と認識された人々による蔑視をもって制作にあたり、その購買層であった当時の「日本人」にも同様にこのような視線があったわけである」と指摘しており (浦川 2004: 71)、この視線が絵葉書に見る近代日本人の「帝国主義的眼差し」であるとしている。
 - 23) 哈爾濱 (ハルビン) は、19世紀末にロシア人が建設した街である。「東洋のパリ」と称され、当時の日本人にとって安全に到達出来る「身近なヨーロッパ」であった。1897年、ロシアが東清鉄道に着手してハルビンの街が建設され始めると、日本人も次第に進出していくようになった。塚瀬 (2004: 10) の研究によると、日露戦争が始まる直前の1903年にハルビンに在住する日本人は681名に達していた。ハルビン絵葉書の選択的受容に関する分析の詳細は、毛利 (2018) を参照。
 - 24) ただし、日本的な図柄は軍事郵便において多く使用される傾向にあった。
 - 25) この絵葉書は日本大学文理学部の所蔵である。
 - 26) 樋畑 (1936-1983) は、東西交通文化の流れの中から絵葉書の重要性に着目し、他国の絵葉書発行の状況も踏まえながら日本の絵葉書について論じており、戦前期における絵葉書研究として特筆するべき成果を残している。樋畑は、実際に逓信行政にも関わり、記念絵葉書の作成にも携わっている (佐藤 1994) は、絵葉書の作成側と

- しての経験を踏まえてまとめられた文献としては、ほとんど唯一のものであると評価している（佐藤 1994：23）。なお、この文献は1936年に日本郵券倶楽部から発行されたが、1983年に復刻版が岩崎美術社から刊行されている。本稿では復刻版について参照した。
- 27) この絵葉書集成は、明治・大正・昭和期の絵葉書を網羅的にまとめた資料として、後続する研究に大きな影響を与えた。
- 28) 秋山（1988）らによる成果は、おもに美術史としての観点から絵葉書を分類している。
- 29) 佐藤（1994）は、主に風景論の視点から絵葉書を論じた。絵葉書に着目した研究については、収集家による収集の蓄積と出版が絵葉書研究のための素材を提供したと評価する一方、組織的な分析はまだ手つかずのままであるとも指摘している。
- 30) 柏木（2000）は、絵葉書は今日のグラフィズムの持つ機能を最初に担ったメディアの一つであったと評価している。
- 31) 田邊（2002）は、当時の絵葉書は現在とは比較出来ないほど重要なメディアであったと指摘し、絵葉書の持つ情報伝達能力の高さ、特に差出人と受取人を結びつけるメディアとしての能力の高さを評価している。
- 32) 富田（2005）は、日本の絵葉書の多様性に言及しつつも、日本の絵葉書の歴史は日本の近代化の歴史を反映するものであり、また戦争の歴史を反映するものであったとしている。
- 33) 橋爪（2006）は、絵葉書の草創期におけるメディアとしての役割に着目しており、「画像入りの私信」という観点から、当時の絵葉書と現代の写真添付つき電子メールの間に類似性を見いだしている。
- 34) 細馬（2006）は、絵葉書は投函から配達までの間で多くの人の目に触れるものであり、内容は読まれても差し支えないものにならざるを得ず、封書と比べると秘密のない、「漏らすメディア」であると説明している（細馬 2006：9）。
- 35) 浦川（2001）は、絵葉書を「歴史を検証する写真資料としての機能」に着目し、その機能を説明するための考察を進めている。また、絵葉書に見る近代日本人の意識（帝国主義的眼差し）についての分析も行っている。
- 36) 日本絵葉書会は、絵葉書の収集を趣味とする愛好家の団体であるが、学術的な研究活動にも力が入れられている。
- 37) 例えば、テキストマイニングの手法を用いた文面のより詳細な解析が挙げられるが、まだ文面のデータを蓄積している段階にとどまっており、実証的な研究はあまり進んでいない。
- 38) 佐藤（1994）によると、絵葉書に関するこれまでの諸研究を「孤立した探索」と見るとし、全体として見ると基礎研究の部分がもろく、相互に絡み合うような考察はあまり行われていないと評している（佐藤 1994：24）。
- 社。
Geoffrey Batchen(1997):Burning with Desire. MIT Press. (ジェフリー・バッチェン『写真のアルケオロジ』前川修・佐藤守弘・岩城 寛久訳、青弓社、2010)
ハルビン絵葉書デジタルアーカイブ <http://ahj.chs.nihon-u.ac.jp/harbin/harbinmap.html>
橋爪紳也（2006）『絵はがき100年 近代日本のビジュアル・メディア』、朝日新聞社。
樋畑雪湖（1983）『復刻版 日本絵葉書思潮』、岩崎美術社。（復刻版：原本は1936年発行）
細馬宏通（2006）『絵はがきの時代』、青土社。
生田誠（2005）『2005日本絵葉書カタログ』里文出版。
———（2009）『麗しき日本絵葉書100の世界』、日本郵趣出版。
Jhon Urry, (1990) *The Tourist Gaze: Leisure and Travel in Contemporary Societies*. London: Sage Publications. (ジョン・アーリ、『観光のまなざし—現代社会におけるレジャーと旅行—』加太宏邦訳、法政大学出版局、1995)
Jhon Urry, Jonas Larsen (2011) *The Tourist Gaze 3.0*. London: Sage Publications. (ジョン・アーリ、ヨナス・ラースン『観光のまなざし [増補改訂版]』加太宏邦訳、法政大学出版局、2014)
柏木博（2000）『肖像のなかの権力 近代日本のグラフィズムを読む』、講談社。
木村松夫・石井敏夫編（1990）『絵はがきが語る関東大震災—石井敏夫コレクション』、柘植書房。
国土交通省・経済産業省・文化庁編（2005）『映像等コンテンツの制作・活用による地域振興のあり方に関する調査』国土交通省総合政策局観光地域振興課・経済産業省商務情報政策局・文化情報関連産業課・文化庁文化部芸術文化課。
米家泰作（2014）「近代日本における植民地旅行記の基礎的研究：鮮満旅行記にみるツーリズム空間」『京都大学文学部研究紀要』(53), pp.319-364.
小森孝之編（1978）『写真集 絵葉書 明治・大正・昭和』、国書刊行会。
近藤信行編（1993）『震災復興大東京絵はがき：尾形光彦コレクション』、岩波書店。
松本和也（2016）「複製／表象としての絵はがき（杭州西湖）」『CAS News Letter』7, 神奈川大学アジア研究センター, pp6-9.
三浦泰之（2009）「1900年代から1920年代の絵葉書アルバム考」『北海道開拓記念館研究紀要』37, 北海道開拓記念館, pp.129-164.
毛利康秀（2013）「絵葉書のメディア論的な予備的研究」『愛国学園大学人間文化研究紀要』15, pp.29-46.
———（2013）「メディアの中の絵葉書—明治・大正・昭和期における新聞記事・広告の内容分析」『年次研究報告書』13, pp.81-91.
———（2015）「ツーリズムの視点からみた「メディアとしての絵葉書」の再検討—戦前期のハルビンに関連する絵葉書を事例として—」『政経研究』52 (2), pp.545-572.
———（2018）「戦前期における絵葉書コミュニケーションの分類に関する研究—ハルビンからの絵葉書の文面分析を事例として—」『年次研究報告書』18, pp.1-10.
村松貞二郎監修（1980）『街 明治・大正・昭和—絵葉書に見る日本近代都市の歩み1902→1941 2関東』、都市研究会。
日本絵葉書会 <http://www.nihon-ehagakikai.com/index.html>
小川寿一（1990）『日本絵葉書小史（明治編）』、表現社。

参考文献・参考サイト

- 秋山公道編（1988）『絵はがき物語』、富士短期大学。
朝鮮写真絵はがきデータベース <http://kutsukake.nichibun.ac.jp/CHO/index.html?page=1>
江本英雄（2013）「コロタイプ印刷と絵葉書」『2013年度特別展 絵葉書 そのメディア性と記録性』和歌山大学紀州経済史文化史研究所, pp.23-25.
二松啓紀（2018）『カラー版 絵はがきの大日本帝国』、平凡

- 六角弘 (1981) 『絵はがきが語る明治・大正・昭和史』 上・下, ビッグ社.
- 佐藤健二 (1994) 『風景の生産・風景の解放 メディアのアルケオロジー』, 講談社.
- 島田健・友岡正孝編 (2009) 『日本記念絵葉書総図鑑』, 日本郵趣出版.
- Staff, F. (1966) *Picture postcard and its origins*, London: Lutterworth Press.
- 高山成一編 (2018) 『日本統治下の絵葉書でたどる濟州島』, 日本絵葉書会関西支部.
- 編 (2019) 『絵葉書に見る近代朝鮮』, 日本絵葉書会関西支部.
- 武田信也 (2015) 「絵はがきの語る歴史」『宮崎県文化講座研究紀要』 42, 宮崎県立図書館, pp.21-36.
- 田邊幹 (2002) 「メディアとしての絵葉書」『新潟県歴史博物館研究紀要3』, 新潟県立歴史博物館, pp.73-83.
- T. Phillips (2000) *The postcard century*, London: Thames & Hudson
- T. & V. Holt (1971) *Picture Postcards of the Golden Age: A Collector's Guide*, London: HarperCollins Distribution Services
- 富田昭次 (2005) 『絵はがきで見る日本近代』, 青弓社.
- 塚瀬進 (2004) 『満洲の日本人』 吉川弘文館.
- 浦川和也 (2001) 「佐賀県立名護屋城博物館所蔵の「朝鮮半島写真絵葉書」について」『研究紀要』 第7集, 佐賀県立名護屋城博物館, pp.23-72.
- (2004) 「日本の「絵葉書文化」の諸相 —絵葉書の資料的価値と近代日本人の意識—」『研究紀要』 第10集, 佐賀県立名護屋城博物館, pp.35-76.
- (2008) 「近代日本人の東アジア・南洋諸島への「まなざし」—絵葉書の史的価値と「異文化」表象」『国立歴史民俗博物館研究報告』 140, pp.117-163.
- 山本笑月 (1971) 『明治世相百話』, 有峰書店.
- 米田頼司 (2013) 「絵葉書の誕生」『2013年度特別展 絵葉書 そのメディア性と記録性』 和歌山大学紀州経済史文化史研究所, pp.17-18.
- Zoe K. Millman (2013) "Photographic Postcards as Research Tools: The 'Postcards from the Cut' Study" *Graduate Journal of Social Science*, 10(2), pp.54-75.